

会員発表紹介

糖尿病治療薬自己注射患者に対する取り組み（第2報）

～チェックシートを利用した薬薬連携～

○高橋尚子 松元茜 遠藤智子 酒井良隆 中島範子 鈴木麻子
高橋卓太 大隅厚 柴田勝弥 佐藤浩保 加藤千里
平鹿総合病院 薬剤科

【目的】 外来患者に対しての自己注射手技の指導は、主に初回導入時あるいは薬剤変更時であり、ほとんどが一回限りの指導となり、実際にどの程度まで理解できたかアセスメント出来なかった。また指導のための統一されたマニュアルはなく、指導する薬剤師によって指導内容が異なっている状況だった。今回、統一した指導及び評価のためのチェックシートを作成し、そのチェックシートを調剤薬局とともに使用し、連携を図り継続して指導を行った。この取り組みについて報告する。

【方法】 共通のチェックシートを作成するため、医師、看護師にアンケートを実施。患者に対してどの程度まで理解してほしいと考えているか、そのうち薬剤師にはどの内容を指導してほしいか尋ねた。その結果をもとにチェックシートを作成。2014年9月～2015年6月の期間、調剤薬局7店舗とチェックシートをやりとりし、その内容をもとに指導を行った。

【結果・考察】 不適切な保管方法や注射手技、単位数の間違い、インスリンボールの発生、食事の乱れからくる低血糖の発生など外来患者の様々な問題点が発見できた。このような、長期の治療によって崩れてくる個々の管理状況、知識の薄れ、また生活環境の問題点、そして継続して治療していることで見つかる疑問点など、初回の指導だけでは見えなかった部分が見えてきた。また調剤薬局とチェックシートを運用し連携指導を継続することで、統一した指導と評価ができ、問題点が改善される患者が増えた。逆に理解状況が改善されていない患者へは指導を強化していくことができた。

継続してチェックシートを利用していくことで、患者の理解が不足している点が明確になり、個人に合わせた指導が可能になると考える。さらに調剤薬局との連携によって指導と評価の機会が増え、患者の治療への意識付けにつながると考える。

第41回秋田県臨床薬学研究会
(H27年7月10日)